

令和2年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒があらゆる場で誠実さ・聡明さ・品位・心の豊かさを追求できるように、教職員は安全で規律ある安心できる学校生活を日々実現する。	① 基本的な生活習慣の確立を図るため、遅刻を防止し、時間を守る指導を徹底する。	生徒課 各学年	遅刻防止キャンペーンを行うと遅刻者は一時的に減るが、年間を通して遅刻者の延べ人数に大きな減少は見られなかった。時間を守るという意識をさらに高める必要がある。	【成果指標】 遅刻の延べ人数が昨年度の80%未満とする。	遅刻の延べ人数が前年度と比較して A：80%未満 B：90%未満 C：100%未満 D：100%以上	C、Dの場合、遅刻が常態化している生徒に対して、保護者及び外部機関等と協力して改善策を検討する。	毎日記録し、月ごとの集計により推移を注視する。
	② 自発的な挨拶、正しい言葉遣いなどを身につけ品位のある人間性を養う。	生徒課 教務課 各部活動	これまでの指導の効果により徐々に意識の向上が見られるが、一部に自発的に挨拶をする意識の低下が見られる。挨拶の定着に向け指導する必要がある。	【成果指標】 生徒が自ら進んで挨拶ができる。	自ら進んで挨拶できる生徒の割合が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	③ いじめ防止に関する講話や教員対象の研修会などにより、生徒・教員ともにいじめに関する認識の向上を図り、いじめの起こらない雰囲気をつくる。	生徒課 保健相談課 各学年	「いじめは必ずある」という認識のもと、実態の把握に努め、個々の事業について、組織的かつ迅速に対応する。	【成果指標】 いじめを見逃さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。	本校の「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめやネットトラブルの未然防止に学校全体で組織的に取り組んでいると回答する教職員の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（教員）で調査する。
	④ 学校生活の中で、環境保全に対する生徒の意識を高め、実践する。	保健相談課 生徒課 各学年	清掃への取り組みやごみの分別など、環境保全に対する生徒の自己評価は高いが、ごみ出しマナーや学習環境の整備をさらに向上させる必要がある。	【成果指標】 ゴミの分別、教室やトイレの消灯が正しくなされている。	ゴミの分別、教室やトイレの消灯が正しくなされている生徒の割合が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
2 生徒が学習意欲を高め主体的に学ぶ態度と方法を体得できるよう、教職員は深い学びの実現に向けて授業改善を重ね、評価の研究を進める。	① 不断の授業改善の実現に向けて、教科を超えて学び合う互見授業や研究授業を実施することにより、教員の資質を向上させ、生徒の学習意欲向上を図る。	教務課 各教科	新学習指導要領の趣旨に沿って試行錯誤している段階であるが、授業改善に向けた教員間の意識は揃いつつある。よい事例の紹介や教科会の授業研究等により、さらに主体的・対話的で深い学びに繋がる授業になるよう取り組んでいく。	【努力指標】 生徒の学びが主体的・対話的で深いものとなるような授業手法を取り入れている。	(生徒) 本校の教員は、生徒が主体的・対話的で深く学習できる授業を行っているという回答する生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満  (教員) 生徒の学びが主体的・対話的で深いものとなるような授業手法を取り入れていると回答する教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、授業改善の状況、指導法を再検討する。	7月と12月に授業評価（生徒）、学校評価（教員）で調査する。
	② 低学年からの進路指導を意識して、学習時間調査や面談を活かし、生徒が見通しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習習慣の定着を図る。	教務課 各学年 各教科	生徒との個人面談の充実等により家庭学習時間が増えたが、まだ一部の生徒が家庭学習習慣が身につけていない。引き続き、計画的かつ継続的な学習習慣の定着が課題である。	【成果指標】 1日平均2時間以上、家庭で学習している生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	【満足度指標】 各種ガイダンスや面談指導によって志望する進路先が具体的に示せるようになった生徒の割合が80%以上である。	1日平均2時間以上、家庭で学習している生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C、Dの場合、学習指導のあり方を再検討する。
3 生徒がより高い進路目標を掲げその実現に向けて邁進できるように、教職員は総力を挙げて生徒一人一人の進路実現を支援する。	① ホーム担任等との面談を繰り返し、生徒が将来を見据えてより高い進路目標を設定できるようにするとともに、生徒の進路実現に向けて、全教職員でサポートする体制を整える。	進路指導課 各学年	年間を通して面談を実施しているが、進路志望が明確になるまでに時間のかかる生徒が多い。一人ひとりの生徒の適性や能力をふまえ、適切な目標設定と将来の進路について考えるための情報を提供する必要がある。	【満足度指標】 各種ガイダンスや面談指導によって志望する進路先が具体的に示せるようになった生徒の割合が80%以上である。	担任との個人面談や進路ガイダンスにより、志望する進路先を明確にすることができた生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	② 地元で活躍できる人材の育成を図るため、地元県内大学を第一志望とする生徒と保護者に対し、年度当初より進路説明会を実施し、合格に向けての個別の取り組み（平日補習、土曜補習等）を行う。			県内大学を受験する生徒が多い。県内大学が難化傾向にあり、本校生徒の合格率に伸びがみられない。目標達成に向けた具体的な数値目標を提示することで、努力を続けるための意欲をサポートする必要がある。	【成果指標】 地元大学の第一志望の進路の合格率を高めるとともに、国公立大学志望者がなげばり強く取り組めたが重視する。	地元大学の第一志望の上級学校等に合格・内定した生徒の合格率と、(地元大学) A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 9月時点で国公立大学を志望した生徒のうち推薦一般入試を受験した生徒の割合が(国公立大学の志望) A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、次年度の進路指導を再検討する。
4 生徒が生徒会活動・部活動・学校内外の行事・体験活動を積極的に取り組む成長できるような、教職員は主体性を引き出す働きかけに努める。	① 部活動の加入率を高めて、学校全体の活性化を図る。また、生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮しながら、部活動が適切に行われているか検証する。	生徒課 各学年 各部活動	昨年度の全体(1～3年)の部活動加入率は82%である。多くの生徒が「部活動が学校生活を活力あるものにしており、努力を続けており、生徒が部活動を通して学校生活の充実を図っていると思われる。	【成果指標】 部活動に登録した生徒が全体の85%以上である。	部活動に登録した生徒の延べ人数が全生徒の A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	C、Dの場合、各部活動の活動内容・記録等を周知するとともに高校生活を通して部活動を続ける意義を実感させる取り組みを再検討する。	5月と10月に部加入率の調査を実施する。
	② ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に積極的に参加する意識を一層高める。	生徒課 各学年 各部活動	地元町会と雪かきボランティア協定を締結するなど、地域から信頼される学校づくりを目指して社会に貢献できるボランティア活動の参加を促していく。	【満足度指標】 部活動が学校生活を活力あるものにしておりと回答する生徒が加入者の80%以上である。	【成果指標】 ボランティア活動が学校生活を充実につながるという回答する生徒が参加生徒の80%以上である。	部活動が学校生活を活力あるものにしておりと回答する生徒の割合が加入者の A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、各部活動の活動時間や内容等を検討する。
				【成果指標】 ボランティア活動が学校生活を充実につながるという回答する生徒が参加生徒の80%以上である。	ボランティア活動が学校生活を充実につながるという回答する生徒が参加生徒の A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	ボランティア活動後に参加生徒を対象に調査する

5	教職員は1～4の実現のため、より効果的かつ効果的な業務遂行を図り、組織的な業務改善策を提案する。	① 教職員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、分掌業務の効率化を図ることにより、勤務時間外の分掌業務を削減する。	副校長 各課・学年主任	昨年度、教職員の時間外勤務月平均44.6時間、月あたり80時間を超える教職員は平均4.3人と減少傾向にある。業務の平準化を更に進めるなど、これまでの働き方を見直すよう努めている。	【努力指標】 全教職員が業務の効率化やタイムマネジメントの意識を高める。  【努力指標】 各課・学年主任が業務の効率化やタイムマネジメントに積極的に取り組んでいる。	(全教職員)業務の効率化やタイムマネジメントの意識が高まったと考える教職員の割合が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。	7月と12月に学校評価(教員)で調査する。
6	教職員は、担当する教育活動の成果等について、保護者や地域に対し迅速かつわかりやすく学校HPや印刷物等を活用して報告する。	① 学校ホームページをより閲覧しやすいように工夫し、保護者や地域、中学生やその保護者等への情報提供を一層充実させる。緊急連絡は、ホームページでも発信できるようにする。	副校長 各課・学年主任	各課、学年及び部活動からの積極的な情報発信と内容の更新により、閲覧数は増加しているが更新の少ない項目があり、各分掌等で定期的に更新する必要がある。緊急連絡の発信は配信メールとあわせて効果的に活用していく。	【満足度指標】 学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく知ることができると回答した保護者等の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく知ることができると回答した保護者等の割合が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A、Bが80%未満の場合、次年度の取組を再検討する。	7月と12月に各課・学年主任に調査する。